

報告事項 エ

平成27年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

平成27年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について  
別紙のとおり報告します。

平成27年6月29日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成27年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

1 議題

とっとり県民カレッジのあり方及び今後の生涯学習推進施策について（諮問事項）

(1) これまでの経過

平成26年12月22日 定例教育委員会議案提出（第5号）

平成27年2月3日 第1回会議開催（県民カレッジを含む県施策の状況説明、意見交換）

平成27年3月4日 第2回会議開催（主に県の役割について議論）

平成27年5月25日 第3回（平成27年度第1回）会議開催（答申骨子案について議論）

(2) 意見の概要

次の骨子案をもとに議論を行った。

〈答申骨子案〉	
1	これまでの鳥取県の生涯学習推進施策の成果と課題
	(1) とっとり県民カレッジの経緯
	(2) 成果と課題
2	今後の鳥取県のすがたと「学び」が果たす役割
3	今後の鳥取県の生涯学習推進施策の方向性
	(1) 生涯学習推進施策の方向性
	(2) 生涯学習推進における県の役割及び各推進主体に期待する役割

区分	主な意見
今後の鳥取県のすがたと「学び」が果たす役割について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（「学んで」「活かす」という）主体性をいかに育むか。学ぶことは楽しいと感じているところに主体性が育まれていると「誰かのために何かをしたい。」という気持ちになる。主体的に活動する人をどう支えていくか。</li> <li>・大上段に構えずに、（学んだことをもとに、または自ら意識していなくても、何かに取り組んで）結果として、ああ、活かしているなど感じる事ができたらいいのでは。</li> <li>・（学びを通じて）日頃から県への愛着や誇りを感じる事ができていけば、県外に出た若い世代も帰ってきてくれるのではないかな。</li> <li>・今は、年齢ごと世代ごとの学びになっているのでは。<u>年代を超えたふれあいが大切</u>。人材は宝。未来の鳥取を支える力になる。ここを大事に据えてほしい。</li> </ul>
今後の鳥取県の生涯学習推進施策の方向性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村には、社会教育主事を活かす姿勢が必要。学んだ成果が仕事に活かされるように、県は、育成した人材（社会教育主事）が市町村で活用されているかフォローしなければいけない。</li> <li>・「方向性」と「役割」だけでなく、鳥取県の社会教育が<u>何を</u>目指していくのかを加えた方が良いと思う。</li> <li>・今の施策は、積極的に活動する人向けの印象。情報が欲しくても自力で情報を集められない人もいる。<u>情報の拠点、相談窓口になれる場所がある</u>といい。</li> <li>・<u>情報を「発信」だけでなく、いかに「届ける」か</u>。届けるところが難しいが、<u>それこそが県の役目ではないか</u>。</li> <li>・若い世代の賛同が得られるような方向性でなければならない。</li> </ul>

(3) 今後の予定

時期		生涯学習分科会	事務局
7月	第4回会議	答申とりまとめに向けての検討	
11月	第5回会議	答申とりまとめ	
12月以降	—		答申を受け具体的施策を検討

2 意見交換

「学校支援ボランティアのあり方」について説明し、意見を求めた。

〈委員名簿〉

氏名	所属・職名等	備考 (第2回会議)
伊澤 悦子	日本ボーイスカウト鳥取連盟鳥取2団ボーイ隊長	
市橋 幸代	湯梨浜町立松崎幼稚園長	
大堀 貴士	NPO 法人ハーモニーカレッジ理事長	
岡崎 誠	鳥取環境大学教授	(欠)
木村 京子	鳥取市立美保小学校長	
近藤 剛	鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授	会長
田中 朝子	鳥取県連合婦人会長	
徳吉 雅人	倉吉市明倫公民館長	副会長
中村 美香	鳥取県連合青年団長	(欠)
長尾 志保	鳥取県PTA協議会ブロック理事	
福井 伸一郎	倉吉市教育委員会教育長	
森岡 祐美子	株式会社山陰放送ラジオ総局放送制作部	
山本 幸子	鳥取市社会福祉審議会委員	